

磯根漁業の操業安定化に向けて

- 自ら考え行動する私たち -

いわき市漁業協同組合小浜支所小浜採鮑組合
熊谷 泰夫

1. 地域及び漁業の概要

小浜は、小名浜の南に位置し、漁業をしながら農業を営む者も多い「半農半漁」の地区である。いわき市漁協小浜支所の平成18年度当初の組合員数は50名、漁船数は36隻であり、磯根漁業、船びき網漁業などを行っている。県の規則では、アワビ・ウニ漁の解禁日は5月1日だが、小浜では例年、田植えを終えた5月20日頃から操業を開始している。水揚げしたアワビは、仲買業者による入札にかけられる。一方ウニは、各自がいわき名産の「貝焼き」に加工し、個別に販売している。

2. 活動グループの組織と運営

小浜採鮑組合は、小浜支所の内部組織であり、磯根漁業を行う者は全員、採鮑組合の組合員となっている。このような採鮑組合はいわき市の10地区にある。

小浜採鮑組合の組合員数は、今年度から1名増えて15名となったが、来年度更に1名増える予定である。組合員の年齢構成（18年4月1日現在）は、50代が5名と最も多いが、39歳以下と70歳以上がそれぞれ3名ずつおり、「老・壮・青」のバランスがとれた組織となっている。なお、いわき市内に、34歳以下の磯根漁業者は12名いるそうだが、このうち3名は小浜採鮑組合員であり、小浜は永崎と並んで若い漁業者が多い組織となっている。

3. 活動課題選定の動機

小浜採鮑組合では、磯根資源を持続的に利用するために、県規則で定められた漁期（アワビ・ウニ5～9月）やサイズ規制（アワビ殻長9.5cm、ウニ殻径3.5cm）を遵守するとともに、アワビ・ウニの種苗放流や空ウニの移植を行ってきた。しかし、これらの取り組みにもかかわらず、アワビ・ウニの漁獲量は減少した。このため、今までの取り組みを強化することとした。

4. 実践活動の状況及び成果

(1) 1日1人あたりの漁獲量の規制

これはかなり前から実施している活動だが、昨年11月に小浜を訪れた学識経験者の方々から、全国的にも稀な資源管理活動であると同様だったので、ここで説明する。小浜では、乱獲防止のために、1日1人あたりの漁獲量をアワビは20個まで、ウニは10kgまでとしている。このため、アワビではより大型のもの、ウニでは身入りの良いものだけを漁獲している。なお、この取り組みは、制限数量に違いはあるが、いわきの他の浜でも行われている。

(2) スキューバ潜水の導入

いわきのアワビ・ウニ漁は、全てウェットスーツ着用による素潜り漁であったが、小浜では平成5年度からスキューバ潜水を導入した。現在、スキューバ潜水を導入しているのは、いわきの10地区の採鮑組合のうち下神白と小浜の2地区のみである。スキューバ潜水の導入により操業が効率化し、次のような成果が得られた。

- ・疲労が軽減した。特に、高齢者や新規就業者には歓迎された。なお、操業の終了時刻は、スキューバ潜水を導入している小浜、下神白では8時頃だが、他の地区では11時頃である。
- ・導入前は、アワビについては20個（制限個数）未満しか獲れない人もいたが、導入後は全員20個獲れるようになり、小浜地区全体の漁獲量の増大につながった。
- ・最大の成果は、導入前は、アワビを20個漁獲することが一番の目標だったために小型貝も漁獲してしまうことがあったのが、導入後は、操業に余裕ができたため、大きなものだけを選んで漁獲できるようになり、資源の管理と有効利用につながったことである。

(3) 餌料環境の改善

小浜地先の築いそで磯焼けが発生したが、原因がウニの食害と考えられたため、平成11年から毎年1回、集中的にウニを駆除し、別の漁場へ移植している。累計で8トン近いウニを駆除したが、獲り残しがあるためか、藻場の回復には至っていない。

同じ頃から、私たちは養殖したコンブを漁場に投餌する取り組みに着手した。養殖は、11～12月頃、コンブの種糸をロープに巻き付け、そのロープを主に港内に設置して開始する。そして、解禁を控えた4月頃、成長したコンブを収穫し漁場に投入する。なお、この活動は、いわきの他の浜でも行われている。

この取り組みにより、アワビの肉付きやウニの身入りが良くなったと感じられたので、更に餌料環境を改善できないかと考え、私たちは独自に次の取り組みを行った。

平成16年、17年には、ワカメの養殖を試みた。養殖はコンブと同じ方法で行ったが、港内には新たにロープを設置する場所がなかったため、港外に設置した。しかし、ワカメの生長や収量は期待どおりにはならなかった。

小浜では、時化の後にアラメが海岸に打ち上げられることがあった。餌料として貴重なアラメを無駄にしてはもったいないので、回収して乾燥させ、餌として漁場に投入した。昨年9月の台風12号通過後には、アラメが大量に打ち上げられたので、採鮑組合員全員で回収し、乾燥させることとした。乾燥させたアラメは、今年の解禁前に、餌として漁場に投入する予定である。

(4) アワビ種苗放流方法の改善

アワビ種苗は、栽培センターで付着器に付着した状態で発泡スチロールに詰められてトラックで輸送される。小浜に到着するまでの約2時間、湿った布をかぶせられてはいるものの、干上がった状態に近いわけで、活力は低下している。そこで、付着器が入った発泡スチロールに十分に海水を張り、種苗の動きが良くなってから放流するようにした。

(5) マダコの駆除

水産試験場から、マダコはアワビの天敵であるとの説明を受けた。以前から、小浜ではカゴや釣りでマダコを漁獲する人がいたが、この話を聞いてからは、より積極的にマダコを漁獲するようになった。もちろん、水揚げ収入も得られるので、採鮑組合員からすれば一石二鳥である。なお、今年度は春先の水温が高めだったためかマダコの来遊が多く、操業終了後の10月から積極的に漁獲したところである。

(6) 情報交換活動の強化

平成16年、県いわき農林事務所から小浜採鮑組合に取材依頼があった。今まで、私たちは県の農林部局とはほとんど接点がなかったが、取材に応じた。翌年、農林事務所は「鮫川流域の食と暮らし再発見」という冊子を作ったが、この中で私たちのアワビ・ウニ漁やウニの貝焼き作りの様子が紹介された。この冊子には大きな反響があり、私たちは知り合いから「冊子に載ってたね」と冷やかされたりした。また、この冊子の作成に携わった県職員の方々は、知事から直々に誉められたそうだ。

小浜のアワビ漁獲量は、スキューバ潜水を導入した平成5年に急増し、その後も増加傾向にある。また、小浜のアワビの平均殻長は、スキューバ導入前後は、下神白より約1cm小さく、永崎、豊間とほぼ同じだったが、近年は下神白とほぼ同じサイズになった。アワビの漁獲増、大型化は、天然資源の増加のおかげもあろうが、私たちの取り組みの成果でもあろうと考えている。平成17、18年に、小浜と下神白ではアワビの平均単価が大きく上昇したが、他地区ではそれ程でもなかった。仲買人等の話によると、アワビを干鮑に加工して海外に輸出する業者が現れたそうで、干鮑への加工には大型貝の方が適しているとのことだった。先ほど述べたとおり、小浜と下神白のアワビは他地区より大型なので、このような現象が起こったようだ。

昨年11月に、学識経験者の方々が小浜採鮑組合に来られ、アワビ・ウニの1日1人あたりの漁獲量規制について、高く評価されたことは既に述べた。この際、アワビ漁獲量は全国的には減少傾向にあるが、福島ではさほど減少していないとお話しも伺った。このことは、小浜に限らず、福島県全てのアワビ・ウニ漁業者が誇りに思って良いことだろう。

一方、小浜のウニの漁獲量は増加していない。県全体の漁獲量も増加していないので、小浜だけ状況が悪い訳ではないが、何らかの改善策を講じる必要があると思う。

5. 波及効果

私たちのアワビ種苗放流方法は、他の採鮑組合からも関心を示された。小浜の南隣にある勿来では、昨年、種苗が入った発泡スチロールに海水を張ってから放流したそうだ。

県いわき農林事務所との縁ができたことで、次のような出来事があった。平成17年に、東京のテレビ局から農林事務所に「夏の特産物を取材したい」との依頼があった。農林事務所では取材候補先の1つとして私たちを紹介した。9月、テレビ局のスタッフ十数名が小浜を訪れた。私たちのウニ貝焼きや小浜漁港の様子は、全国ニュースで生中継された。

6. 今後の課題

アワビについては、漁獲状況はまずまずだが、水産試験場の市場調査結果によると、近年、放流種苗の回収率が低下しているようだ。また、ウニについては、漁獲量が増加していない。

小浜では、アワビ・ウニ合わせて20万個近い種苗を1日のうちに放流しているために、種苗の扱いが雑になっているおそれがある。上記の課題の解決策の1つとして、放流種苗をもっと丁寧に扱うことが考えられる。

私たちは磯根漁業の操業安定化のために、私たちに知恵を出し合い、良いと思ったことは実行してきた。活動の中には、漁協や行政機関にこれといった相談をしないで始めたものも多いし、中には思うように成果の出ないものもあった。しかし、自分たちで考え、行動した結果なので、それはそれで貴重な経験になると思う。漁場や資源を利用しているのは、他でもない自分たちである。これからも「老・壮・青」それぞれが意見を出し合い、協力しながら頑張っていこうと思う。

小浜採鮑組員（15名）の年齢構成

各採鮑組合の組員数



小浜のアワビ・ウニ種苗放流数の年変動

磯焼け域でのウニ駆除



コンブ養殖ロープは港内に設置



ワカメ養殖ロープは港外に設置



打ち上がったアラメを乾燥



大量に打ち上がったアラメ（18年9月）



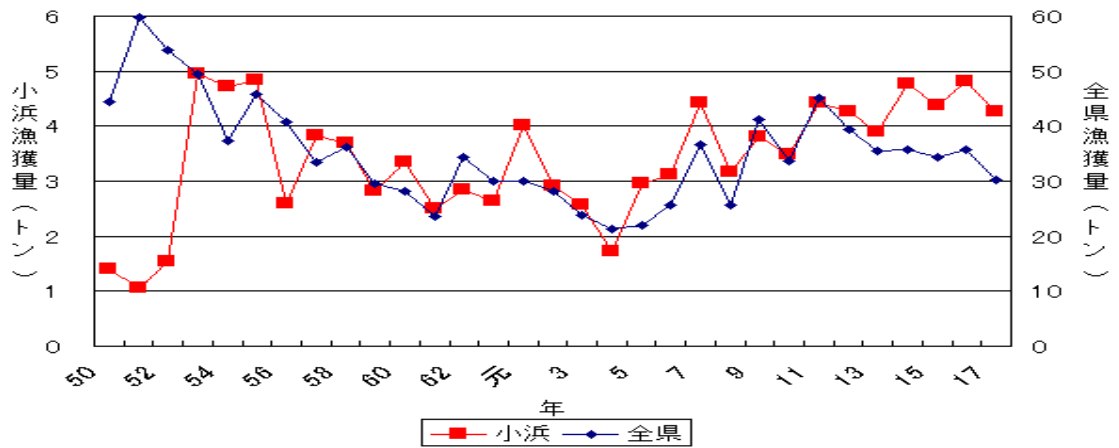
打ち上がったアラメを乾燥



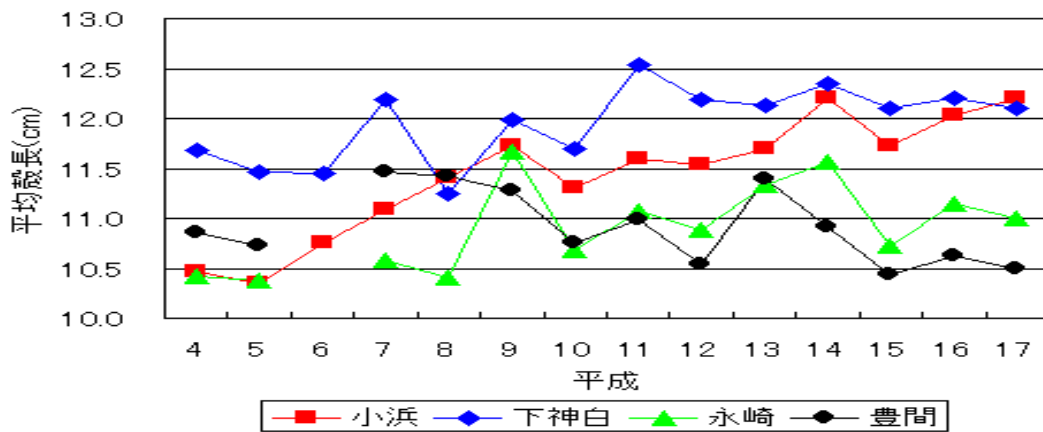
アワビ種苗が入った発泡スチロール箱に海水を張る



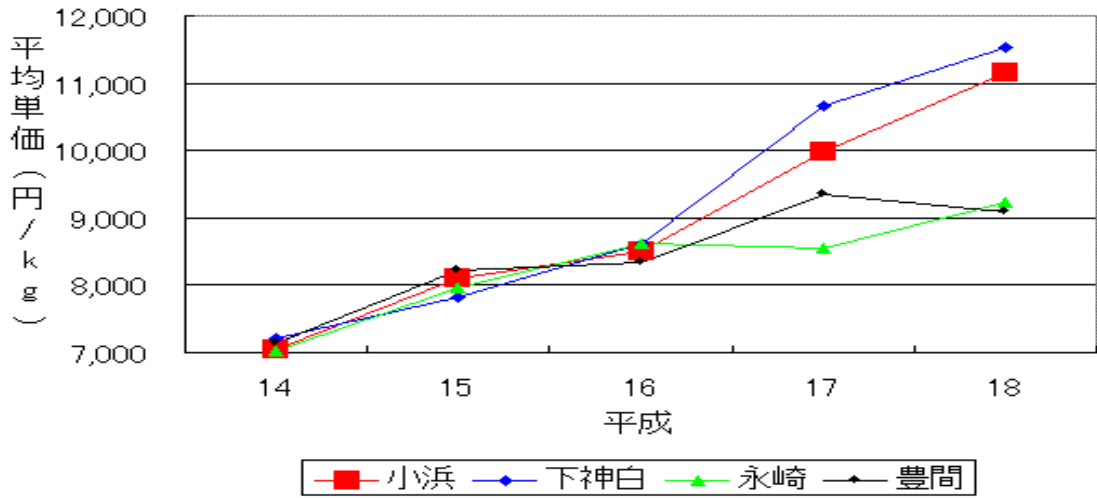
県いわき農林事務所作成の冊子



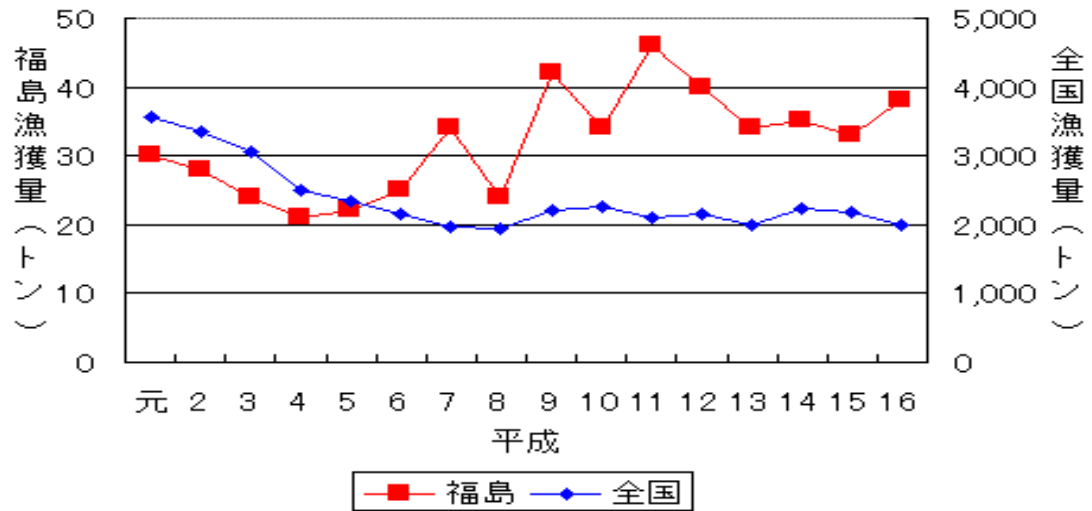
アワビ漁獲量の年変動 (小浜、全県)



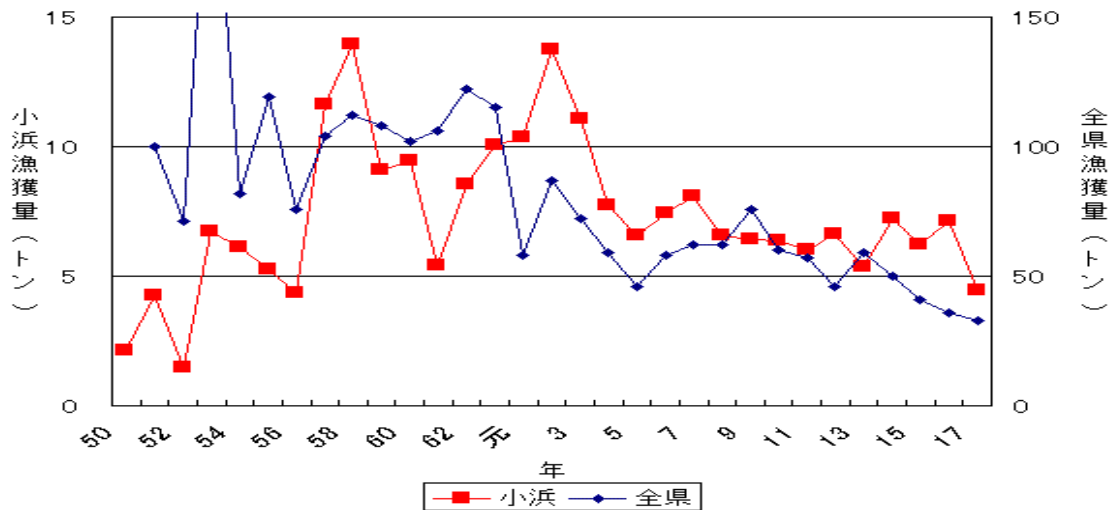
アワビ平均殻長の年変動 (主要地区別)



アワビ平均単価の年変動 (主要地区別)



アワビ漁獲量の経年変化 (全国、福島)



ウニ漁獲量の年変動 (小浜、全県)